

# 片田遺跡(概報)

延岡市文化財調査報告書

— 第 5 集 —

1990

延岡市教育委員会

## 序 文

延岡市は、宮崎県北最大の都市で近年宅地開発や公共事業等が進められています。

これらの事業と関連して文化財の多くが、永遠にその姿を消し去ろうとしています。このような中で片田遺跡は、土地区画整理組合関係者、市の区画整理課の理解と協力を得て事業着手前に発掘調査を実施し、記録保存という形で後世に残すことができました。本書が、埋蔵文化財への理解と認識を深める一助となる研究資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から資料整理、報告書作成に至るまで県文化課や資料指導を賜った先生方をはじめ、発掘調査に従事していただいた地元の方々、並びに寒風の中参加していただいたボランティアの方々に心より感謝申し上げます。

平成2年3月31日

延岡市教育委員会

教育長 松坂 敦男

## 例　　言

1. 本書は、延岡市片田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 遺跡の所在地は、延岡市大字恒富第29番地字狩迫である。
3. 調査期間は、平成元年10月23日から平成2年1月20日まで実施した。
4. 出土遺物については、別府大学文学部教授　橋昌信氏の御教示を得た。
5. 現場での実測、写真撮影は山田聰が行なった。遺物の整理は山田、大塚徳子、柳田祝子、富高淳子、甲斐佳代、中尾彩子、遺物の実測は高松永治が行い、製図は大塚、富高、甲斐がそれぞれ行った。遺物の写真撮影は中尾、柳田、甲斐の協力を得て山田が行った。
6. 本書の執筆は、第1章、第2章を山田が、第3章、第4章を高松が担当し、編集は山田が行った。
7. 出土遺物は、延岡市教育委員会で保管している。

# 本文目次

## 第1章 調査に至る経緯

1節 調査の経緯.....	1
2節 調査の組織.....	1

## 第2章 調査の概要

1節 遺跡の立地と環境.....	3
2節 基本層序について.....	4
3節 調査の概要.....	5

## 第3章 出土遺物について.....9

## 第4章 まとめ.....16

# 挿図目次

第1図 周辺の遺跡.....	3
第2図 土層模式図.....	5
第3図 調査区配置図.....	6
第4図 遺物の平面分布図.....	7・8・9
第5図 ナイフ形石器.....	11
第6図 撥器・抉入石器・削器.....	12
第7図 角錐状石器・彫器・石錐.....	14
第8図 細石核.....	15

## 図 版 目 次

- 図版 1 (1) 遺跡遠景（北から） (2) 遺跡近景（北から） (3) 調査風景  
(4) A 地区遺物出土状況（その 1） (5) A 地区遺物出土状況（その 2）  
(6) C 地区遺物出土状況 (7) B 地区遺物出土状況 (8) G 地区遺物出土状況
- 図版 2 (1) ナイフ形石器 (2) 搗器、抉入石器、削器
- 図版 3 (1) 角錐状石器、彫器、石錐、細石核 (2) 細石核

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

延岡市の中南部に位置する片田町は、古くから農業地帯として栄えていた。昭和40年代にはいると、いわゆる列島改造ブームにのり、隣接する若葉町に大規模住宅団地の造成がはじまつて、周辺地域が宅地として注目を集めるようになった。昭和50年代になると、片田町にも宅地開発の動きがでてくるようになった。しかし、当時片田町は市街化調整区域で開発不可能な状況であった。そこで、区画整理事業を行うことを条件に、昭和56年、都市計画区域に編入された。その後、区画整理組合準備委員会が結成され、昭和63年5月、市教育委員会に対して、文化財の有無の問い合わせがあった。市教育委員会では、片田古墳（現在消滅）の隣接地で、付近一帯が以前より埋蔵文化財の包蔵地として知られていることから、県文化課に依頼して、昭和63年5月に分布調査を実施した。調査の結果、須恵器片が採集された。そのため、市教育委員会では県文化課に依頼して、昭和63年7月11日から7月15日まで県文化課主査、面高哲郎氏による試掘調査を実施した。調査の結果、区画整理予定区域 6.3haのうち、東側丘陵から打製石斧、剝片が確認され、遺跡の存在が明らかになった。

このため、事業予定者である延岡市片田土地区画整理組合設立準備委員会と市の区画整理課を交えて、遺跡の取り扱いについての協議を行ったが、現状保存は困難なため、事業着手前に発掘調査を行って、記録保存の措置をとることになった。

発掘調査は、延岡市片田土地区画整理組合の依頼により、延岡市教育委員会が調査主体となり、平成元年10月23日から平成2年1月20日までの間実施した。

## 第2節 調査の組織

総括	延岡市教育委員会	
教育長	松坂數男	
社会教育課長	甲斐常美（63年度）	
課長補佐兼社会教育係長	松島崇（元年度）	
	年森弘光（63年度）	
	大石孟（元年度）	
庶務・会計	事務職員	宮野原八代子（63年度）
		今村敦美（元年度）
		宮野原八代子（元年度）
発掘調査担当者	宮崎県教育委員会	
文化課主査	面高哲郎（63年度）	
延岡市教育委員会		
事務員	山田聰（元年度）	
調査指導	別府大学文学部 教授	橋昌信（元年度）
調査協力	宮崎県教育委員会	
文化課主査	宍戸章（元年度）	
北方町教育委員会 主事	小野信彦（元年度）	
日向市教育委員会 学芸員	緒方博文（元年度）	
調査補助員	別府大学	
	考古学研究室 研究生	高松永治（元年度）
整理作業員	大塚徳子、甲斐佳代、富高淳子、中尾彩子、柳田祝子	
	山田眞由美	

第2章 調査の概要

## 第1節 遺跡の立地と環境（第1図）

片田遺跡は、延岡市大字恒富第29番地字狩迫に所在する。当遺跡は、延岡市の中南部にそ



第1図 周辺の遺跡

1. 片田 2. 林 3. 地藏ヶ森

びえる愛宕山（標高251.2m）から南方に向かって舌状に派生した丘陵上に位置し、標高15-18mを計る。眼下には沖田川に形成された沖積平野が広がり、豊かな田園地帯となっている。当遺跡と平野との比高差は約10mあって、繩文海進の頃は丘陵直下まで海岸線が入りこんでいたと思われ、付近に片田貝塚、小野町に沖田貝塚<sup>(1)</sup>が所在している。また、小野町には県指定延岡市古墳2~4号墳<sup>(2)</sup>、片田町には5基の古墳（現在消滅）、上伊形町越路からは大型の子持勾玉が出土するなど周辺には多くの遺跡が点在している。

延岡市内では、現在のところ旧石器時代の遺跡が3か所調査されている。舞野町の赤木遺跡では、ナイフ形石器、剥片尖頭器、三稜尖頭器、たたき石、スクレーパー等から構成される赤木第1文化層と細石核、細石刃等から構成される赤木第2文化層に分けられ、県内を代表する遺跡である。小峰町の地蔵ヶ森遺跡では、エンドスクレーパー、使用痕剥片、縦長剥片等が出土している。<sup>(3)</sup>伊形町の林遺跡の調査では標高10m以下からナイフ形石器等が出土し、延岡市南部で初めての旧石器時代の遺跡として注目されている。<sup>(4)</sup>

#### 参考文献

- (1) 烏居龍藏『上代の日向延岡』鳥居人類学研究所 1935年
- (2) 石川恒太郎『延岡市史』国書刊行会 1981年
- (3) (1)同じ
- (4) (2)同じ
- (5) 長友良典「赤木遺跡」『延岡市文化財報告第4条』1987年
- (6) 近藤協「地蔵ヶ森遺跡」『宮崎県文化財発掘調査書第31集』1988年
- (7) 北郷泰道「林遺跡」『宮崎県文化財発掘調査書第30集』1987年

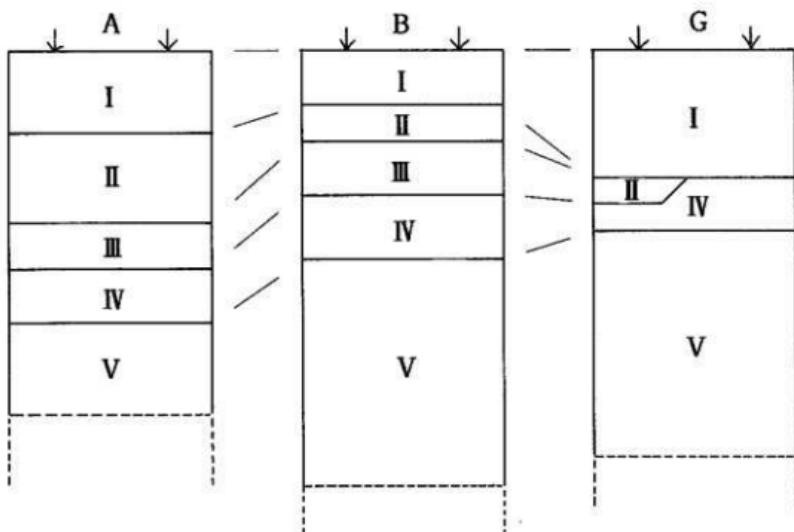
#### 第2節 基本層序について（第2図）

当遺跡では、長年にわたる開墾のためか、いわゆるアカホヤ層が認められなかった。また、土層模式図に示すとおり丘陵と東西に分ける形で層序が分かれた。基本層序は次のとおりである。

- I層 耕作土
- II層 茶褐色土層 砂質を帯びる
- III層 黒褐色粘質土層 粘性を帯び 5~10cmのブロック状にわれる。
- IV層 黄褐色土層 鹿児島県の姶良カルデラを噴出源（21,000~22,000年前）とし、通称A Tと呼ばれる火山灰層である。
- V層 黒褐色粘土層 III層より粘性を帯び10~20cmのブロック状にわれ、かたくしまる。

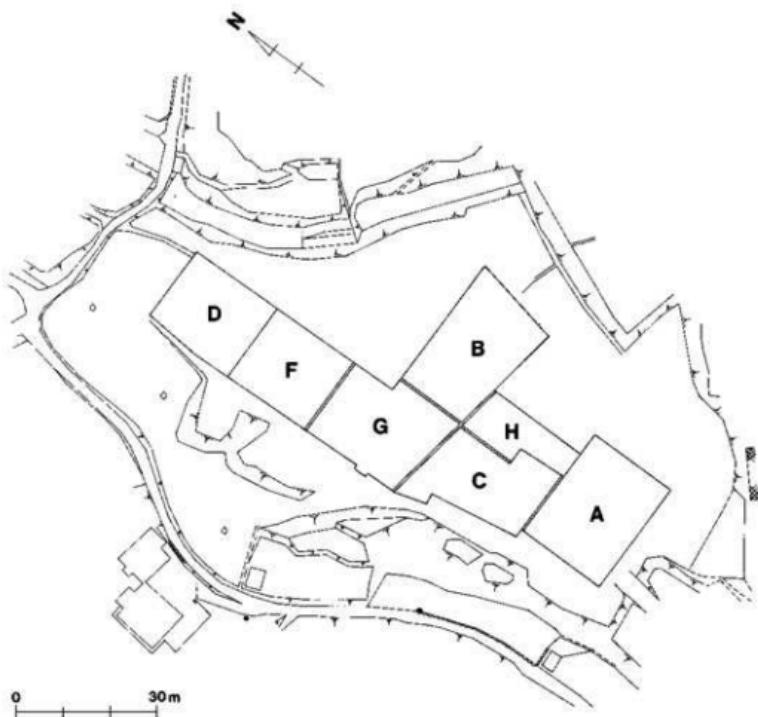
### 第3節 調査の概要（第3・4図）

平成元年10月23日、ユンボによる表土剥ぎ取り作業を開始した。耕作土は平均30cmあり、土捨て場確保のため、調査区域の縮小を余儀なくされた。作業後、測量委託によるS N杭設置

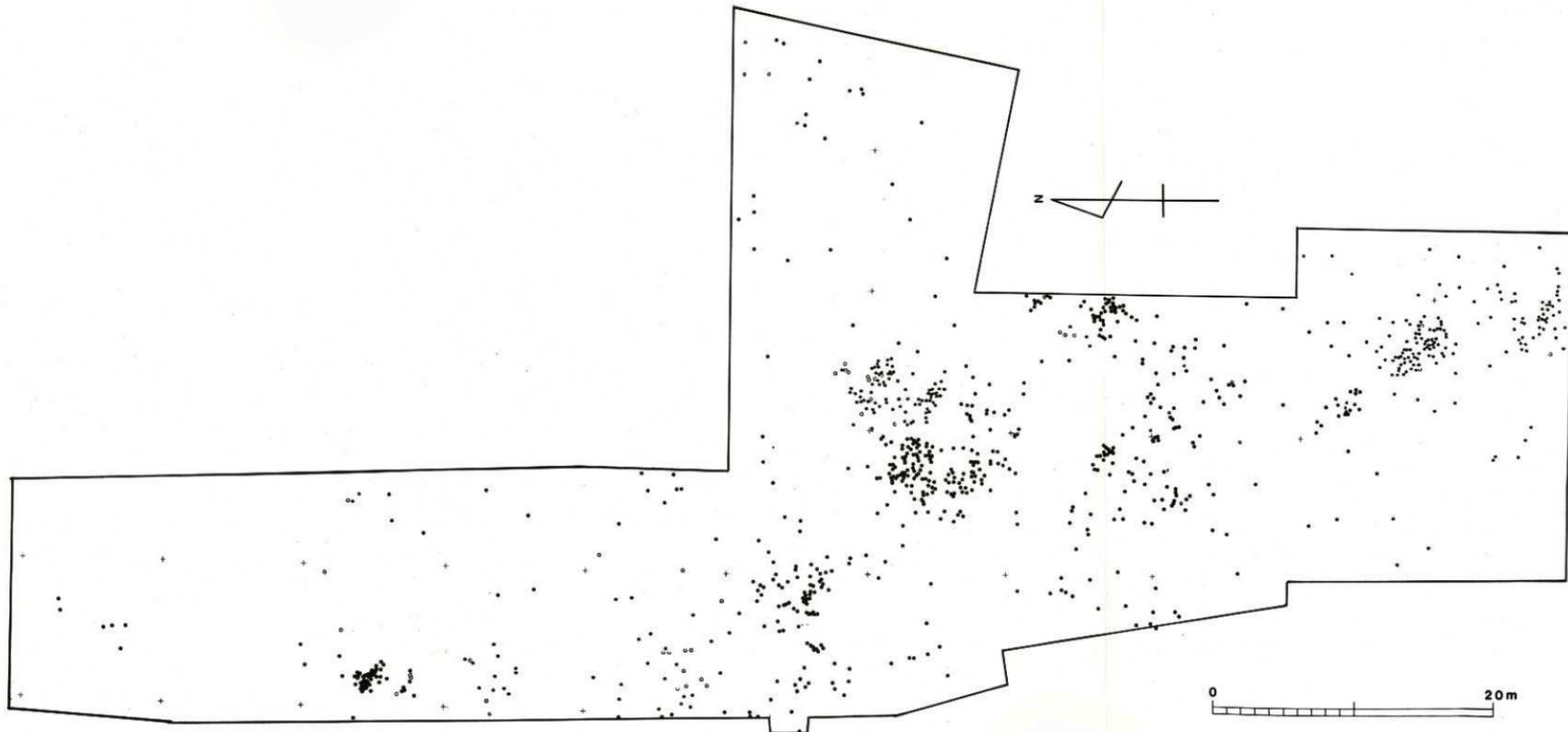


第2図 土層模式図

を行い、10月30日から発掘作業を開始した。調査区は、調査の順番によりA～H地区を設定した。調査面積は3,000m<sup>2</sup>あって、遺物は主に第Ⅲ層から出土し、総数約1000点を数えた。A地区からは、Ⅱ～Ⅲ層にかけて数ヶ所遺物の集中が認められ、ナイフ形石器、搔器、彫器、角錐状石器、細石核、石核等が出土した。他には、東側から礫群を検出した。B地区からは、第Ⅲ層を中心C、G、H地区に広がる形で遺物の集中が認められ、ナイフ形石器、搔器、削器、打製石斧、石核等が出土した。C地区からは、第Ⅲ層を中心にH地区に広がる形で集中が認められ、ナイフ形石器、削器、石錐、彫器、石核等が出土した。D、E地区からは、遺構、遺物ともほとんど検出されなかった。F地区からは、1m×2m四方にわたり遺物の集中が認められた。G地区からは、第Ⅲ層を中心に遺物の集中が認められ、搔器、削器、細石核、石核等が出土した。H地区からは、第Ⅱ層を中心に搔器、石核等が出土した。



第3図 調査区配置図



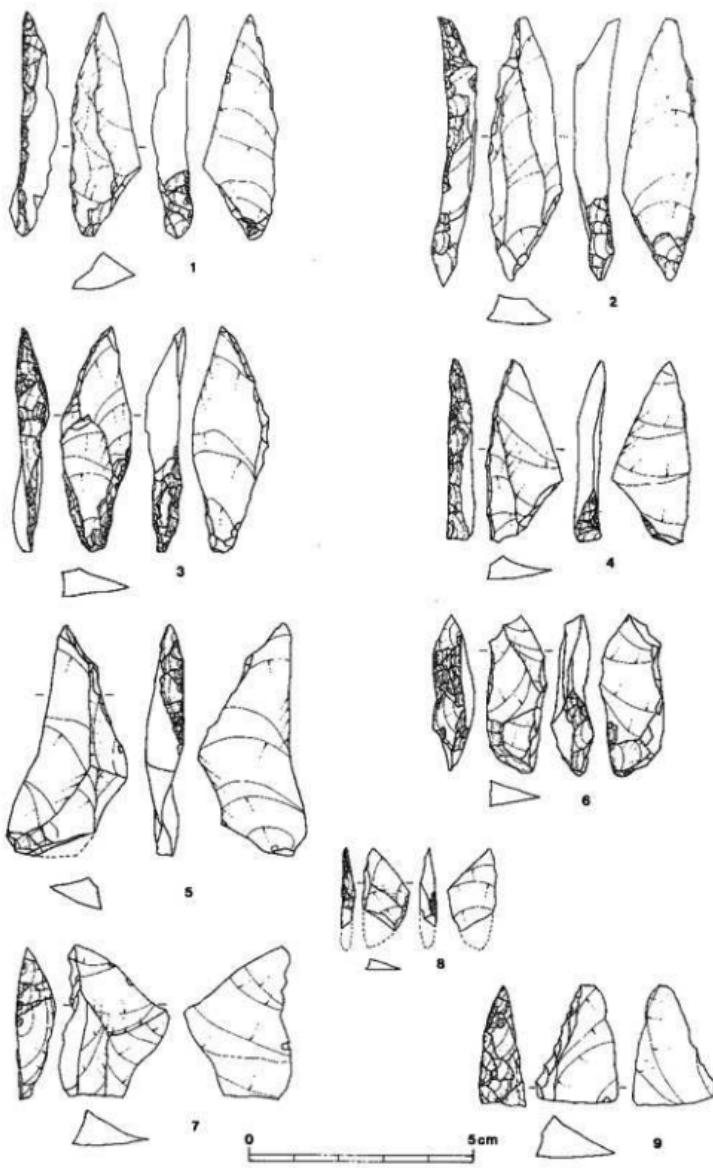
第4図 出土遺物平面図

### 第3章 出土遺物について

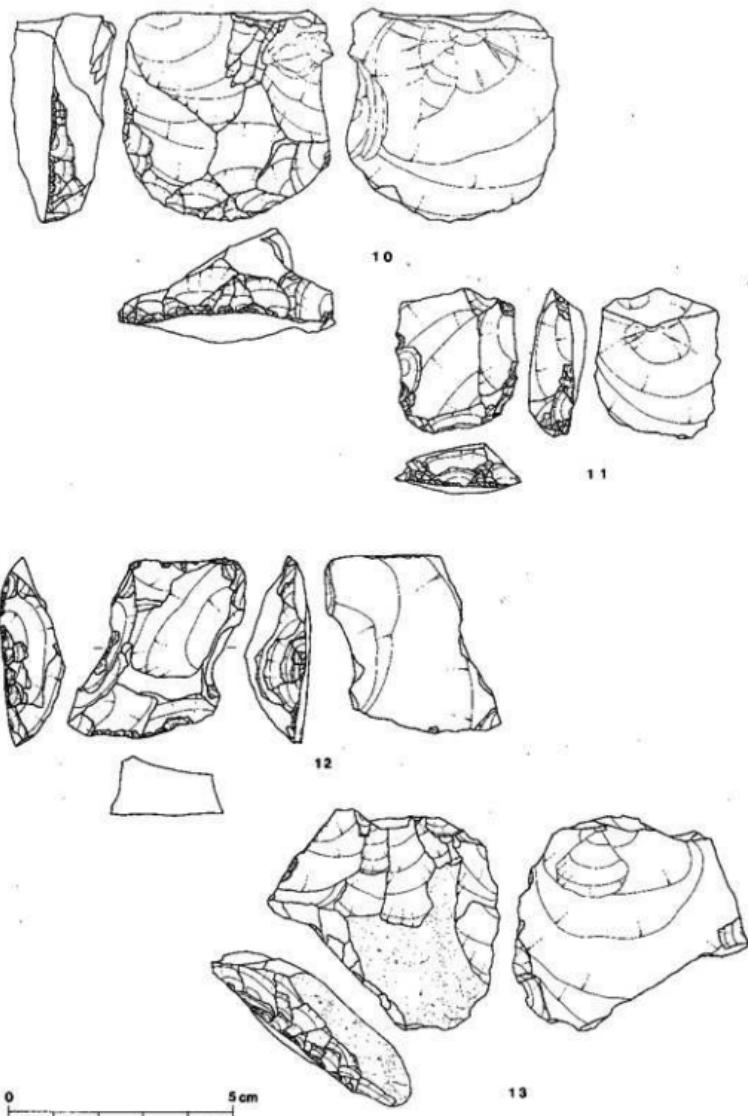
片田遺跡では、900点近い石器類が出土していると同時に、10ヶ所くらいのブロックを形成している。出土した石器類には、ナイフ形石器、搔器、削器、抉入石器、石錐、彫器、角錐状石器、打製石斧、細石刃、細石核、二次加工剝片、使用痕剥片、石核、剝片、碎片、台石、敲石などがある。石材は、ほとんどが流紋岩であり、僅かにチャート、黒曜石、安山岩、砂岩が認められる。今回、この中よりいくつかの石器を取り上げ、器種ごとにまとめている。

#### ナイフ形石器（第5図）

- 1 縦長剝片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。プランティングは、先端部のみ背面・主要剝離面の両側より施されている以外、主要剝離面からのものである。
- 2 両設打面の石核より剝離された縦長剝片を素材とし、斜め整形を施した二側縁加工のナフ形石器である。プランティングは、主に主要剝離面方向から施されているが、先端部で背面からも一部に認められる。
- 3 縦長剝片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。プランティングは背面・主要剝離面の両側より施されており、基部に素材の打面をわずかに残している。
- 4 両設打面の石核より剝離された縦長剝片を素材とし、斜め整形を施した二側縁加工のナイフ形石器である。プランティングは主に主要剝離面方向から施されているが、先端部で一部背面からのものも認められる。
- 5 縦長剝片を素材とし、先端部にプランティングを施した部分加工のナイフ形石器である。基部の一部は欠損している。
- 6 縦長剝片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。左側縁のプランティングは主に背面方向から施され部分的に主要剝離面方向から施されているのに対し、右側縁の基部には主要剝離面から施されている。また、基部には裏面加工も認められる。ナイフ形石器において唯一、チャート製のものである。
- 7 素材となった剝片の左側部をカットしてその一部にプランティングを施した部分加工のナイフ形石器である。
- 8 縦長剝片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。小形で切出し型を呈しており、基部を欠損している。
- 9 横長剝片を素材とし、素材の打面部をカットするようにプランティングが施されている部分加工のナイフ型石器と考えられる。ナイフ型石器の形態から瀬戸内技法の影響を受けたものと考えられる。



第5図 ナイフ形石器



第6図 搔器・抉入石器・削器

#### 搔器（第6図）

10 長幅比が1:1で厚みのある剥片を素材とし、下端部に主要剥離面方向から細かな調整で刃部を形成している。刃部は使用のためか摩滅している。また、主要剥離面には、素材となった剥片が剥離される前に、横方向から加撃されたと考えられる痕跡を残している。

11 縦長剥片を素材とし、下端部に主要剥離面方向からの調整により刃部を形成している。刃部調整は、比較的大まかなものである。

#### 抉入石器（第6図）

12 厚みのある剥片を素材とし、素材の打面部と下端部をカットし抉入するように主要剥離面方向からの調整が施されている。抉入部に使用によると考えられる摩滅が認められ、また素材の縁辺にも使用痕が認められる。

13 長幅比が1:1で厚みのある剥片を素材とし、左側縁下部に主要剥離面方向からの調整が施されている。調整はとても細かであり、使用によると考えられる摩滅が認められる。また、左側縁上部の縁辺に使用痕が認められる。

#### 削器（第7図）

14 縦長剥片を素材とし、素材の左側縁に刃部調整を施したものである。

15 縦長剥片を素材とし、素材の打面部と右側部を切断して左側縁に主要剥離面からの調整により刃部を形成している。

#### 彫器（第7図）

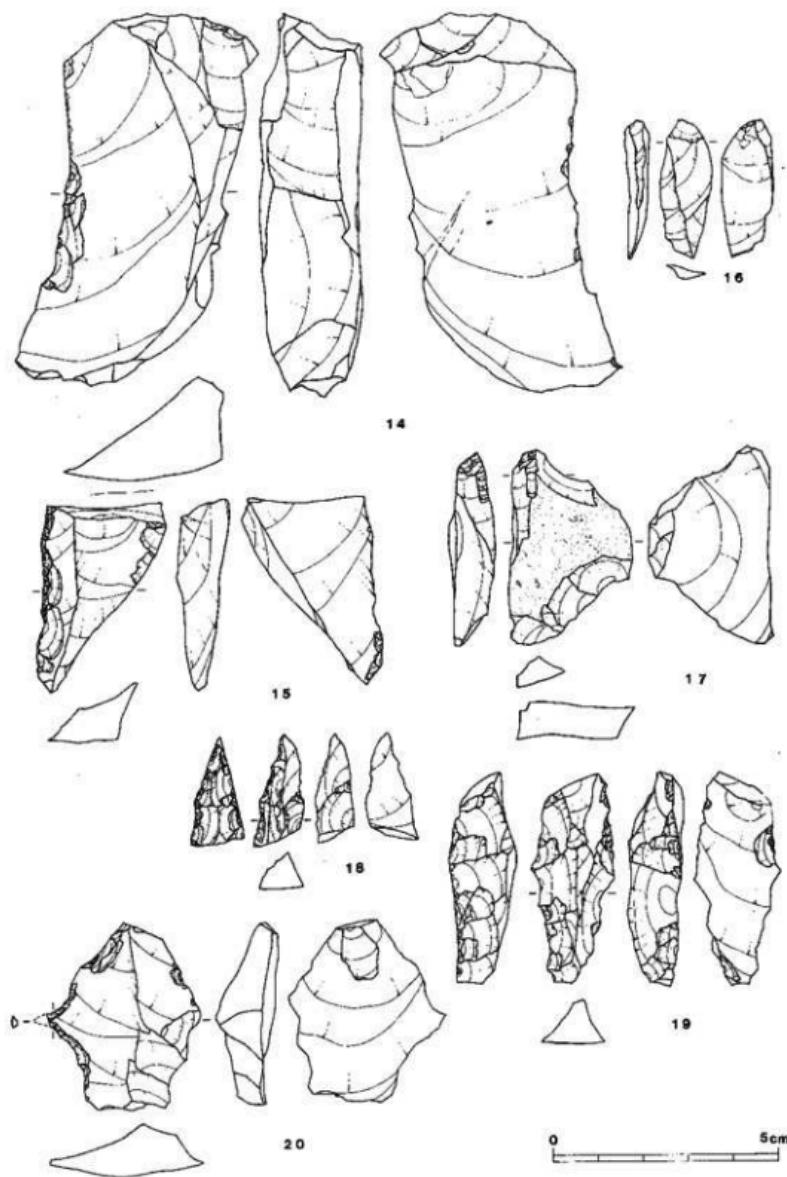
16 縦長剥片を素材とし、素材の左側縁に打面方向からの1回の調整により彫刀面を作出している。

17 素材となった剥片を切断し、その切断面に單一方向から数回の調整により彫刀面を作出している。背面には大きく自然面を残している。

#### 角錐状石器（第7図）

18 厚みのある剥片を素材とし、背面は、主に主要剥離面方向からの調整により1本の稜を形成している。また、先端部を尖らせており、背面左側部には部分的に稜上から調整が施されている。下部は欠損している。

19 厚みのある縦長剥片を素材とし、主要剥離面方向からの調整により背面に1本の稜を形成している。



第7図 角錐状石器・彫器・石錐

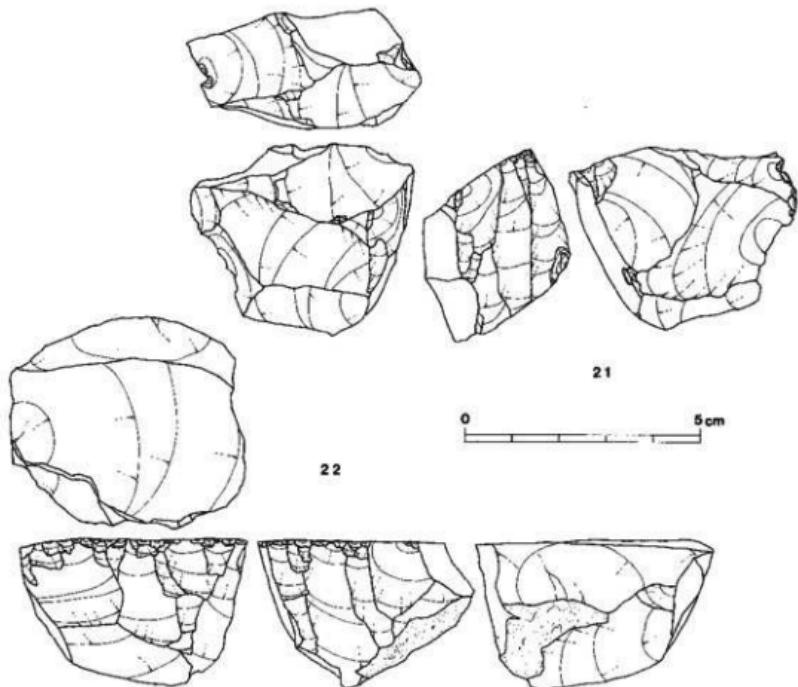
### 石錐（第7図）

20 縦長剥片を素材とし、左側縁に主要剥離面からの調整により抉入部を作ることにより錐部を作出している。錐部の先端は欠損している。

### 細石核（第8図）

21 母岩を粗割りしたものを素材としている。細石刃生産のための打面は、作業面に対して左に傾斜しており、複剥離である。側面の調整は、細石刃生産のための打面からのものが認められず、作業面方向またはこれと180度反対方向のものがほとんどである。

22 母岩を分割した分割面を細石刃生産のための打面、一側面として設定し、他側面を打面方向から施されている。また、打面には細調整が施されていない。このような特徴が船野型細石核と呼ばれているものであり、この細石核は典型的なものである。



## 第4章 まとめ

片田遺跡は、五ヶ瀬川下流域に位置しており、五ヶ瀬川右岸の愛宕山山麓に立地している。本遺跡のすぐ下には、片田貝塚があり、西側には沖田貝塚がある。

このような五ヶ瀬川流域における旧石器時代の代表的な遺跡としては、出羽洞穴、岩土原遺跡、赤木遺跡、地蔵ヶ森遺跡、林遺跡などがあげられる。この中で五ヶ瀬川下流域の遺跡は赤木遺跡、地蔵ヶ森遺跡、林遺跡であり、片田遺跡を含め下流域で多く発見されている。このような傾向は、下流域に旧石器時代の遺跡が多く立地する可能性を示すものとも考えられるが、現在のところ遺跡数が少なくしかも下流域での開発状況を考慮すれば納得できるものである。また、片田遺跡、林遺跡は標高が低いなどの共通した地理的条件が認められ、低丘陵においても旧石器時代の遺跡が立地するようである。

片田遺跡では、AT（姶良・丹沢火山灰）の上位よりいくつかのブロックと共に約900点の石器類が出土している。出土した石器類には、ナイフ形石器、搔器（エンド・スクリーバー）、削器、抉入石器、彫器、石錐、角錐状石器（三稜尖頭器）、石斧、細石刃、細石核、二次加工のある剝片、使用痕のある剝片、側片、碎片、石核、敲石、磨石、台石が認められる。以上のようなことから、複数の時期の生活面が考えられ、ブロックの同時性を分析する必要がある。このほか、集石遺構も検出されている。

ブロックの同時性であるが、土層の堆積に若干問題もあり、層位的に分類することが困難なものとしている。しかし、ブロックごとに石器組成、石材（個体）などに特徴を持っており、これらを個別に検討することで分類が可能となるものと考える。また、個別資料の検討によりナイフ形石器と細石核の共伴関係が確認される可能性があり、ナイフ形石器文化期の石器類も複数に分類されそうである。

1～6のナイフ形石器は、同一ブロックのものであり、大分県大野川中流域の駒方古屋遺跡、百枝遺跡で出土しているAT下位のものと類似しており、AT下位の石器群の特徴を色濃く残すものとして注目される。またAT上位の石器群である宮崎市金剛寺原第1遺跡の石器群に比較的に類似している。9のナイフ形石器は、瀬戸内技法の影響を受けたナイフ形石器とも考えられるが1点のみであるため接合資料・石核などからの技術基盤を明確にする必要がある。瀬戸内系のナイフ形石器が認められる遺跡として延岡市赤木遺跡、宮崎市堂池西遺跡、金剛寺原第2遺跡があげられる。このうち角錐状遺跡を伴うものは、赤木遺跡、金剛寺原第2遺跡である。また赤木遺跡、堂池西遺跡では剝片尖頭器が伴っている。22の細石核の形態は、分厚い剝片を分割した分割面より側面調整が施され細石刃剝離のための打面として設定されている。

また、打面には調整が施されておらず東九州に分布する「船野型細石核」の典型的なものである。21の細石核は周囲から大まかな調整を施したあと、打面を調整しながら細石刃を生産している。側面調整を施したあと打面を作出したものと考えられ、船野型細石核と全く異なる形態のものであることが注目される。

石材については、ほとんどのものが無斑晶流紋岩またはホルンフェルスが用いられており、僅かにチャート、黒曜石、安山岩のものも認められる。無斑晶流紋岩・ホルンフェルスについては、北方町、延岡市の五ヶ瀬川河床の転礎中に石器類に使用されたものと同じような石材が採集されており、五ヶ瀬川河床が石材の採集地となると考えられる。

最後に、今後の分析結果により石器群の分類が期待されると同時に、AT上位における下位に類似した石器群が存在することに注目し、AT直上期の石器群の様相に迫るものと考えられる。

今回の調査に参加する機会を与えて頂いた延岡市教育委員会の方々、また資料操作を快く承諾頂いた山田聰氏に深く感謝申し上げる。また、別府大学の橋昌信教授に御教示頂きました。文末でありますと厚くお礼申し上げる次第であります。

図 版



(1) 遺跡遠景（北から）



(2) 遺跡近景（北から）



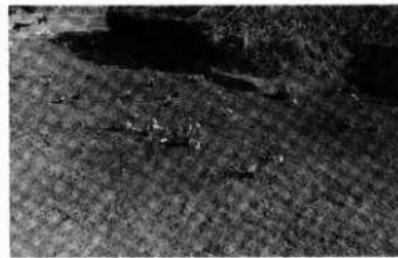
(3) 調査風景



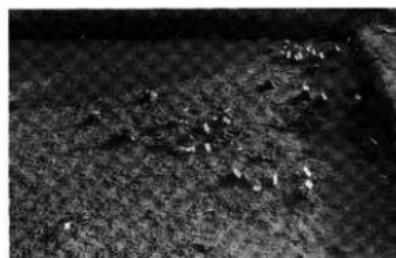
(4) A地区遺物出土状況（その1）



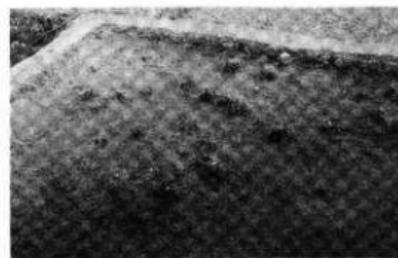
(5) A地区遺物出土状況（その2）



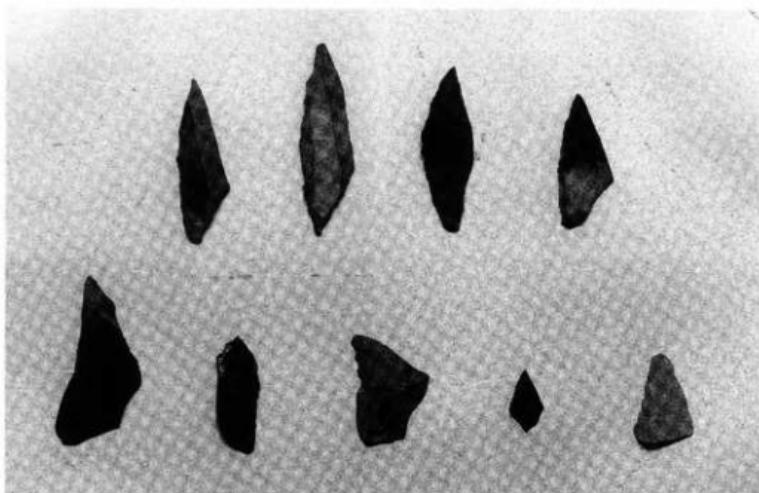
(6) C地区遺物出土状況



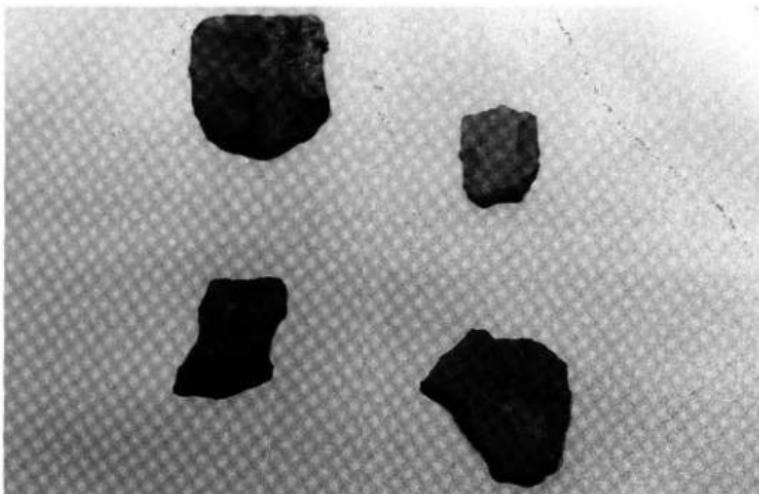
(7) B地区遺物出土状況



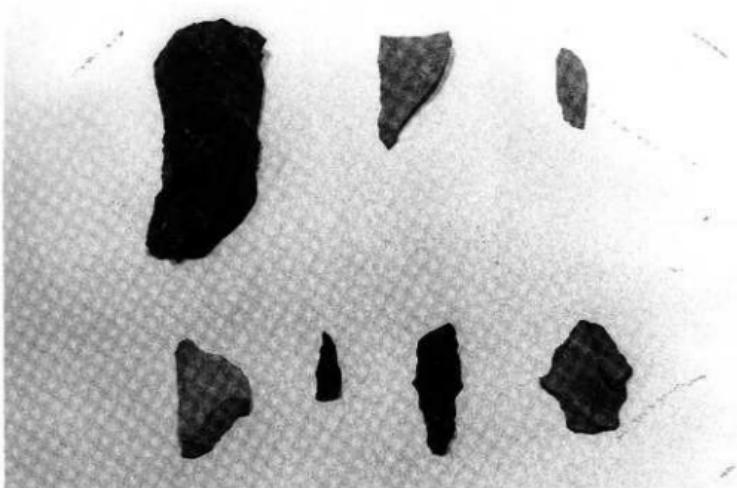
(8) G地区遺物出土状況



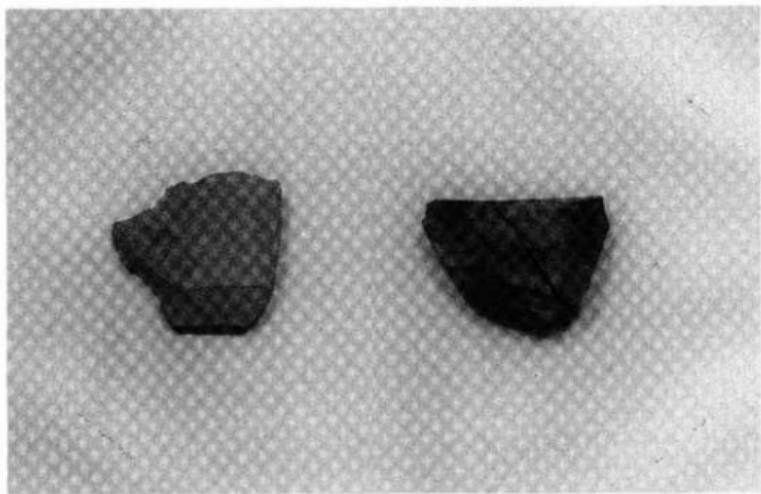
(1) ナイフ形石器



(2) 摘器・抉入石器・削器



(1) 角錐状石器・彫器・石錐



(2) 細石核

# 片田遺跡

延岡市文化財調査報告書 第5集

1990年3月31日

発行 延岡市教育委員会  
延岡市東本小路2-1

印刷 衡ながと印業  
延岡市出北4丁目2479